見本

令和３年度

経済学部

総　合　型　選　抜

小　論　文

注 意 事 項

１．試験開始の合図があるまで，この問題冊子を開かないこと。

２．この問題冊子は，全部で５ページ，解答用紙は２枚，下書き用紙は２枚である。試験開始の合図があってから確認すること。

　なお，試験問題に文字などの印刷不鮮明，ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあった場合は，手を挙げて監督者に知らせること。

３．試験開始後に，解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。氏名を書いてはいけない。

４．解答はすべて解答用紙に記入すること。解答は，解答用紙の所定欄に記入しなさい。

　解答用紙の所定欄以外に記入した解答は，評価（採点）の対象としない。

５．配布された問題冊子および下書き用紙は，試験終了後，持ち帰ること。

実施年月日
2.10.21
富山大学

見本

【問題１】次の文章を読んで，［設問１］から［設問３］に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

ためらいもなければ，含みも曲折もない，そんな単純な物言いが溢れている。思考を停止したまま，不満や不安の強度を単純に高めるだけの，そんな粗雑な物言いが。ワン・フレーズのイメージ語，それがひとびとの意識を攫ってゆく。それは，ワン・フレーズで言い切られるものであるがゆえに，屈折もなければ否定による媒介もない。つまりは「極・単」（ごく単純）このうえない。たとえば①「勝ち組・負け組」という物言い。「負け組」に向けられるあっけらかんとした嘲笑は，かつて二十歳の女性を「おばさん」と呼んだあの女子高校生の感覚を思い出させる。いずれすぐ自分もなる世代を唾棄するというのは，つまりは自分自身を唾棄することにほかならない。それは，言葉というよりもむしろあまりに単純な羨望のナイーヴな叫びであり，またそうでない自分をなじる悲鳴だと言える。そして，単純に強度を加えるだけというところに，細部のニュアンスや複雑なコンテクストへの配慮をあえてしないところに，何か深い苛立ちを，あるいは暴力性の澱を，つい感じてしまう。

屈折も否定による媒介もない思考には，他のひとびとの思いや感じ方への過剰な同調はあっても，奥行きはない。まわりから期待されている思考や感覚の型にすっと嵌らないもの，あるいはそれから外れるものを認めつつ，それらとじっくり摺り合わせをおこなう，そうしたためがない。このことを，思考に肺活量が足りないと言いかえてもよい。

では，思考のその肺活量とは何か。それは，いますぐわからないことに，わからないままつきあう思考の体力と言ってもよいし，あるいはすぐには解消されない葛藤の前でその葛藤にさらされつづける耐性と言ってもよい。

わたしは戦後生まれの第一の世代に属する者であるが，この世代は「受験戦争」なるものにいやでも巻き込まれた最初の世代でもある。受験勉強はゲームみたいなもので，要領よく点数を稼いでできるだけ短い時間で済ませたほうがよいというふうに，わたしもこの「戦争」を受けとめていた。けれども，同級生たちが五十代になって企業や役所などでそれなりに責任のある立場に就くようになって思ったのは，受験勉強でついた頭の癖というのは存外しつこかったなということだ。入学試験や模擬テストを受けるとき，試験問題がくばられるとまずはぱらぱら頁をめくって，やったことのある問題，かならず解ける問題を探し，次に見たこともない問題，何が問われているのかさえわからないそういう問題を見つけて捨て，それからまずかならず解けるその問題で最低点を稼いで，あと残りの時間は，グレーゾーンにある問題，つまりひょっとしたら解けるかもしれない問題に集中する。

けれども②この方法を社会の現実に適用すればたいへんなことになる。変動期にある社会は，さまざまの構造的な問題を内蔵している。これまでの尺度では測れないような困難な問題をである。そのような複雑な問題に直面したとき，まずはわかるところから対応するというのならまだしも，いま起こっている理解困難な問題，その本質がだれにもまだ見えていない問題を，自分がこれまでに手に入れた理解の方式で無理やり解釈し，ゆがめてしまうというのは最悪の対処の仕方であろう。

わかっているものだけで解釈するというこのことが，先に述べた「極・単な思考」を招きよせる。しかし，社会の複雑な現実を前にしてわたしたちが働かせるべき頭というのは，すぐにはわからないけれども大事なこと，それを見いだし，そしてそのことに，わからないまま正確に対処するということだ。

三つのまったく異なる場面を③例にとって考えてみよう。

まず，政治的な思考について。政治的な判断はきわめて流動的で不確定な状況のなかでなされる。外交政策であれば，それぞれの思惑を測り，いくつかの可能性を想定して，それぞれに手を打つ。しかし，そうした対処じたいが関係国の思惑を刺激し，事態はいっそう複雑になってくる。国内政策であれば，

見本

さしあたって不可欠の政策ＡとＢがあるとして――たとえば景気刺激と構造改革という，相反する政策――，いずれを先にするかでＡとＢのそれぞれの政策としての実効性は大きく変じる。政策が置かれる状況じたいが大きく変化してしまうからである。だからＡに先に手をつけるのか，Ｂを先に実行するのか，それを手遅れになることなく決定しなければならない。けれどもいずれが有効か，だれも見通せているわけではない。見通せないけれども決断しなければならないのだ。つまり，結果がわからないまま，わからないことに正確に対応するということ，それが政治的思考には求められるのだ。

次に，ケアの思考について。病院で，ある患者がひじょうに深刻な病に陥ったとき，そしてどういう治療と看護の方針をとるかというときに，考えは立場によって大きく異なる。医師の立場，看護師の立場，病院のスタッフの立場，患者の家族の立場，そして何より患者本人の思いと，さまざまな思いや考えが錯綜（さくそう）する。そのうちだれかの意見をとれば，別のだれかが納得しない。つまりここには正解はない。一個の正解がないままスタッフたちは，猶予もなしに治療と看護の方針を決めなければならない。

最後に，アートの思考について。たとえば，制作中の画家には，自分が表現しようと思っているものが何かよくわからない。描きたい，表現したいという衝迫だけは明確にあるが，描きたいそれが何であるかは自分でも摑（つか）めていない。けれども，ここはこの色でなくてはならない，あそこはこういう線でなければならないという必然性は感じている。だから画面のある一色だけを別の色に置き換えれば全体が台無しになってしまう。これしかありえないという必然性を追うなかで絵はやっと描き終わる。しかしその画業の意味を問われても答えようがない。画家の元永定正（もとながさだまさ）さんは自分の作品について「これは何ですか？」と問われるといつも，「これはこれです」と答えるのだという。そういう意味では，曖昧なものを曖昧なままに正確に表現する，一箇所もゆるがせにしないで，正確に，これしかないという表現へともたらすこと，これが画家の力量である。

このように，政治，ケア，描画のいずれにおいても，いちばん大事なことは，すでにわかっていることで勝負するのではなく，むしろわからないことのうちに重要なことが潜んでいて，そしてそのわからないもの，正解がないものに，わからないまま，正解がないまま，いかに正確に対処するかということなのである。そういう頭の使い方をしなければならないのがわたしたちのリアルな社会であるのに，多くのひとはそれとは反対方向に殺到する。わかりやすい言葉，わかりやすい説明を求める。

だが大事なことは，④困難な問題に直面したときに，すぐに結論を出さないで，問題が自分のなかで立体的に見えてくるまでいわば潜水しつづけるということなのだ。それが，知性に肺活量をつけるということだ。目の前にある二者択一，あるいは二項対立にさらされつづけること，対立を前にして考え込み，考えに考えてやがてその外へ出ること，それが思考の原型なのに，そうした対立をあらかじめ削除しておく，均しておくというのが，現代，ひとびとの思考の趨勢（すうせい）であるように思われてならない。

ひとは，思いどおりにならないもの，理由がわからないものに取り囲まれて，苛立ちや焦り，不満や違和感で息が詰まりそうになると，その鬱ぎを突破するために，自分が置かれている状況をわかりやすい論理にくるんでしまおうとする。その論理に立てこもろうとする。わからないものをわからないまま放置していることに耐えられないからだ。だから，わかりやすい物語にすぐに飛びつく。

出典：鷲田清一『わかりやすいはわかりにくい？――臨床哲学講座』ちくま新書，2010 年，178-184 頁（問題作成において，文章・見出しなどを一部省略・修正した。）

［設問１］下線部①は何を例示したものか，文中から抜き出しなさい。

見本

［設問２］下線部②に対して，著者はどのようにすればよいと考えているか，文中の言葉を用いて 80 字以内で説明しなさい。

［設問３］下線部③を参考にして，あなたが関心を持っている下線部④のような社会問題を１つ挙げ，400 字以内で論じなさい。

見本

【問題２】次の文章を読んで，［設問１］から［設問４］に答えなさい。解答はすべて解答用紙に記入しなさい。

The environment, in the view of the World Commission on Environment and Development, is common property; ecosystems are shared. Human life should be integrated in a wider context; it is （ ① ）. Therefore, commons are often associated not with growth but with sustainability. It is interesting that currently, especially in Latin America, new world views are promoted that re-actualize* traditional connections between living beings and nature. The concept of '*living well*' promotes a vision of life that differs from the neoliberal ideology*. A basic element is respect for the integrity of nature as a source of life. This vision has been introduced in the constitutions of Ecuador (2008) and Bolivia (2009), countries with large indigenous populations. At the leadership of Bolivia, the United Nations proclaimed 22 April as International Mother Earth Day, recognizing that Earth and its ecosystems are our home.

BUEN VIVIR (SUMAK KAWSAY): LIVING WELL

Ecuador used to have a flourishing economy in the 1970s. Between 1995 and 2000 it became one of the poorest countries in Latin America (the number of poor people rose from 34 per cent in 1995 to 71 per cent in 2000). Public services such as healthcare and education collapsed due to political uncertainty, corruption and neoliberal economic policies. This background created the need for new social and political approaches. The world views of indigenous peoples in the Amazon and Andean regions provided inspiration. In Ecuador it is expressed as *Sumak Kawsay* (from the Kichwa language*), in Bolivia as *Suma Qamaña* (from the Aymara language*) but in fact a plurality* of views exists among various populations. For example, indigenous societies in Canada have a world view that connects individual, land, family, values, spirituality and everyday life. This view is symbolized as a （ ② ）: individual behavior is like the leaves; community customs are like small branches; ethics are like large branches; values are like the trunk; but the whole tree is rooted in the （ ③ ）.

These alternative approaches use the idea of commons in two senses. <u>The first sense is global: the planet is our home. Mother Earth is the basis for existence. It cannot be owned. We, as human beings, belong to it and we all share it. The second sense is local: since human beings are part of communities and these communities are closely connected with nature, they are responsible for respecting all living creatures within their common scope</u>.

出典：Henk ten Have (2016), *Global Bioethics: an introduction,* Routledge, pp.127-128 より抜粋。（問題作成に際して，一部変更を加えた。）

見本

注：
re-actualize　再現する
neoliberal ideology　新自由主義のイデオロギー
Kichwa language　ケチュア語
Aymara language　アイマラ語
plurality　多元性

［設問１］以下の語を並べ替えて空欄①を埋めなさい。
the environment sustainable life all in only and with harmony

［設問２］空欄②，③に，それぞれ適当な語を挿入しなさい。

［設問３］下線部を 200 字以内で和訳しなさい。

［設問４］環境が共有財であるという著者の主張はどのような理由に基づいているか。本文全体の趣旨に即して 100 字以内の日本語で説明しなさい。

受験番号								

見本

令和３年度　富山大学経済学部　総合型選抜小論文　解答用紙

【問題１】

［設問１］

設問１ 得点

［設問２］80 字以内

設問２ 得点

［設問３］400 字以内

設問３ 得点

総得点

受験番号								

見本

令和３年度　富山大学経済学部　総合型選抜小論文　解答用紙

【問題２】

［設問１］

設問１ 得点

［設問２］

②

③

設問２ 得点

［設問３］200 字以内

設問３ 得点

［設問４］100 字以内

設問４ 得点

総得点

下書き用紙

見本

下書き用紙

見本